

## 式 辞

神奈川県南方諸地域の戦没者に対する献花式を執り行うにあたり、神奈川県民を代表して、謹んで申し上げます。

最初に、神奈川県南方諸地域戦没者追悼式の開催中止について申し上げなければなりません。

本年は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、開催地への影響と参列者の皆様の安全を考慮し、誠に遺憾ながら止む無く開催を断念することといたしました。

年一回の大切な追悼の式典を中止としたことについて、心よりおわび申し上げます。

顧みますと、先の大戦が終わりを告げてから、七十五年という長い歳月が過ぎ去りました。

この摩文仁の丘に立ち、眼下に広がる豊かな海と緑を見渡しますと、苛烈を極めた戦闘の中、ここ沖縄や、灼熱の南国の地で、祖国の平和と発展、そして最愛の家族を案じながらも、帰らぬ人となった戦没者の方々の無念が偲ばれ、胸の潰れる思いです。

私たち神奈川県民は、戦後二十年目にあたる昭和四十年に、南方諸地域で戦没された方々を追悼し、永久の平和を祈るため、この地に「神奈川の塔」を建立しました。建立五十年となる平成二十六年には、ご遺族の皆様をはじめ、県民の皆様のご協力のもと、改修整備を行いました。

献花式という形ではございますが、改めて戦没者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

また、今日まで幾多の困難を乗り越えられたご遺族の皆様のご労苦に対して、心からご慰労申し上げ、深く敬意を表するものでございます。

世界に目を転じますと、残念ながら、テロや地域紛争により、尊い生命が奪われ、幾多の人々が苦しみの中にいます。また、我が国周辺においても、国家の安全が脅かされる行為が相次ぐなど、世界平和への道のりは、いまだ遠いこ

とを痛感せざるを得ません。

こうした厳しい世界情勢の中、私たちは戦争で亡くなられた方々の尊い犠牲によってもたらされた平和の尊さ、そして戦争の悲惨さを、決して風化させることなく、未来を担う次の世代へしっかりと継承し、真に平和な世界を実現するために、全力を尽くしてまいります。

そして、すべての人のいのちを大切にし、誰もがその人らしく暮らすことのできる社会、そうした「ともに生きる社会かながわ」の実現にむけて、全力で取り組んでまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、戦没者の方々のご冥福<sup>めいふく</sup>と、本日ご参列いただいた皆様方のご健勝を、心からお祈り申し上げまして、私の式辞といたします。

令和二年十一月二十六日

神奈川県知事 黒岩 祐治